

# キッズ ふくしま インたがだ

第10号

2019年6月1日

(発行)

キッズふくしまインたがだ実行委員会  
(事務局)

〒943-0892

新潟県上越市寺町2-24-4

真宗大谷派高田教務所内

TEL:025-524-3913/FAX:025-524-2645

URL:<http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>

## 実行委員長

高田教区第四組 養性寺

うちやま まさあき

内山 真明

去る三月二十五日～三十日にかけて、キッズふくしまが開催され、福島県から元気な子どもたちが新潟県の地を踏んだ。

二〇一一年に始まり今に至るこの高田教区の活動は、福島第一原発事故による「保養」事業であり、この事業を通して問われるのは、「原発事故の根本は何か?」「原発事故後に何が残ったのか?」「何も出来ない」「私」に何が出来るのか?」「今、どうすることで未来に何が残せるか?」。この四つが問われているように思う。

「原発事故の根本」は後先を考えた便利への依存。「原発事故後、何が残ったか」は人間の五感に感じる事が出来ない放射線が飛び散り健康被害への不安が



高田別院前での集合写真

心配され、多くの人や地域が考え方から二分されてしまっていること。「何も出来ない」「私」に何が出来るのか?」は状況に応じて出来ること、募金であったり、活動に対しての声かけであったり、一緒に活動したり。そして、「今、どうすることで未来に何が残せるか」。今、キッズふくしまには色々なスタッフが関わってくれている。年齢幅の広いスタッフが一緒に活動する中で、原発事故がゆっくりと見えてきているスタッフ、原発事故から東北の震災が何だったのか尋ねてくるスタッフ。個々がこの活動を通して感じてくれることは先が

明るく思う。その中でも今回嬉しかったことは、キッズふくしま募集期間中に福島市に住んでいるキッズOGの中学二年生が後輩たちを楽しませたい、どうしても手伝いたいという熱い手紙をくれたので、準スタッフとして参加してもらったことである。彼女たちはセンター、ホームステイと十分に自分たちが出来ることをしてくれたと思う。

過去にもOBの高校生と一緒に活動してくれたことがあった。彼ら、彼女らには宗教は関係ないだろう。その中でキッズふくしまの活動を過ごした子どもたちが、自分たちの選びの中から出来る活動をしてくれたことは当に大谷派が大事にしている「人の誕生」の形ではないだろうか。

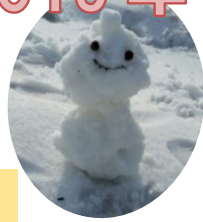
今来ている子どもたちは、震災を覚えていないかいないかの子ども達に参加している。

今後、子どもたちに震災の話を伝えながら私たちが確認していくこともキッズふくしまの大きな役割になっていくように思う。



# キッズふくしまインたかだ スプリングキャンプ2019

2019年3月25日～3月30日



## 池の平日程

3月25日～27日

### 1日目 (3月25日)

池の平センター到着 自己紹介  
オリエンテーションなど

今年も総勢三十二名の元気な子供たちが新潟に来てくれました。長旅の疲れなどものともせず、一日目の催し物を楽しみました。夕食は定番のカレー。初めて参加の子も何度も来てくれて嬉しい夕食になりました。



夕食の様子。みんな元気いっぱいです



開会式で自己紹介



レクリエーションで交流を深める





## 2日目 (3月26日)

### 雪遊び、お楽しみ会



二日目は雪と思いきり戯れても  
 らいました。暖冬小雪の新潟県で  
 したが、ここは日本でも有数の豪  
 雪地帯「妙高池の平」です。三月末  
 でもまだまだたっぷり雪を楽し  
 むことができました。雪像づくり  
 やそり遊び、トンネル作りは、各班  
 で計画し協力して実施しました。  
 また雪上トレッキングも行い、た  
 くさんの思い出を作ることができ  
 たのではないのでしょうか。



## 会計報告

この活動に対し様々な方に御支援を頂きまし  
 た事を、ここにご報告させていただきます。

※順不同

- ・高田、新井両別院報恩講
- ・報恩講講師 渡辺愛子様
- ・女性のつどい
- ・すずなの会様
- ・全日本仏教会様
- ・教区内御寺院様方

(2,019年4月16日現在)

**通帳残高 1,378,289円**

この募金はキッズふくしま実行委員会が管理  
 をして、必要があれば実行委員会の決済を経  
 て、キッズふくしま関連事業への補助を行いま  
 す。今後も高田、新井両別院報恩講や各種行事  
 において募金活動を行う予定です。引き続きご  
 理解、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

### ネットで公開しています

これまでの「キッズふくしまインたかだ」  
 の取り組み、今後の予定などを、たくさんの  
 写真と共に随時アップしています。ぜひア  
 クセスしてみてください。

なお、この広報誌はホームページにPD  
 Fデータでカラーアップされていますの  
 で、印刷してご利用ください。

ホームページ

<https://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>

Facebook

<https://www.facebook.com/kidsfukushima/>

Twitter

<https://www.twitter.com/kidsfukushima/>



夜はマジックショーを楽しみました。ボランティアの飯田さん、そしてスタッフによる楽しいショーに、会場は笑いに包まれました。



## 3日目 (3月27日) レクリエーションなど

朝の勤行の後の感話の様子です



3日目最終日は、高田教区児童連絡協議会の皆さんによるレクリエーションで交流を深めました。みんなで力を合わせたボール運びや、物語のストーリーを班別につけて発表するゲームなどを行いました。

半日楽しく遊んだ後は、みんなで昼食をいただいで各ホームステイ先へ出発しました。



## 参加してくれた

## 子どもたちの声

福島市 小学六年生

伊藤 亜紗華さん

私は、このキャンプに参加してみても、思ったことがあります。

一つ目は友達の大切さです。まだ友達がいなかったらキャンプすら来ていないと思います。友達がいるから、このようなキャンプで遊べます。また、いわき市の友達もできました。

二つ目は、活動での大切さです。

二日目の雪上レクで私の班は、トンネルをつくりました。だけど、トンネルを作るのは思っていたよりも、ずっと大変でした。だけど、みんな頑張ったからこそ、作れたと思います。そして本番では、一位になれて嬉しかったです。

今回は、お世話になりました。次回もよろしくお願ひします。

福島市 小学六年生

渡邊 瑠亜さん

私は、新潟に行つて様々なルールや約束がわかりました。例えば「ご飯を食べる時に「みひかりのもと…」などを言うのが初めてでびっくりしました。

私は、手巻寿司を自分で作つて食べたのですが、おにぎりを自分で作つたのが、すごく楽しかったです。それに違う地域の友達とも仲良くできてよかったです。寝る前にゲームをしたり、友達とたくさんしゃべったりできて凄く良かったです。

ホームステイでは、自分たちでご飯を作ったり後片付けをする時にみんなで大笑いが出て良かったです。私が一番心に残っている事は、パンケーキを食べたことです。自分で上手に焼けたのでうれしかったです。家でも作りたいと思います。あと、もんじゃ焼きとお好み焼きも作つて食べました。シズホちゃんの妹も来て一緒に食べたので楽しかったです。私は初めて新潟に来ていろいろ学べたのでまた行きたいです。



## ボランティアの声

新潟県立看護大学

若林 奈津美様

キッズ福島にボランティアスタッフとして参加させていただいて、たくさん身になる経験ができました。今回、参加しようと思った動機は自分が看護教諭志望であることです。そのため、最初はいろいろなことを吸収しようと観察するような目で子供たちを見ていましたが、気付けば全力で楽しんでいる自分がいました。

初対面にも関わらず、みんな屈託なく話しかけてくれたり、遊びに入れてくれてとてもうれしかったです。学校という環境でなくてもスタッフの話を静かに行儀よく聞いたり、友達が鼻血を出してしまったりした時はすぐにスタッフに伝えて心配する様子や色々なゲームでグループごとに協力する様子、福島の良いところがたくさん言えること等、たくさんの方々がそれぞれの子の良いたところを見つけてみんなのことがとても愛しく好きになりました。スタッフの方々もスケジュールやゲーム、企画の手が込んでいたり料理も楽しく美味しく愛をたくさん感じて暖かく素敵な空間、時間が過ぎたことに感謝でいっぱいです。

今回のキッズ福島は自分の進路に関わること以上に楽しい春の思い出となりました。スタッフの方含め皆さんとの出会いはとても大切なものになりました。ありがとうございました。

またお会いできることを楽しみにしています。

## キッズふくしまにお力添えいただきありがとうございます

「キッズふくしま」とは福島第一原発事故を機に始まった、福島県の子どもたちのための保養活動です。現地の声には、「個人宅の放射能除染が行き渡っていない」、「遊び場である公園に連れて行ったり、遊ばせたりする事が不安」などという声が聞かれます。また子どもたちからも「普段遊んでいた空き地は数値高いから遊べない」、「山に入っちゃいけないって言われた」等、大人は不安からのストレスに、子どもたちは遊び場を失うストレスに悩まされる日々が今だに続いています。

「キッズふくしま」は、大人たちが便利という言葉にごまかされて思考を止め、本当の安全を追及して来なかった事や、原発事故、放射能汚染等の負のバトン子どもたちに渡さなければならぬ事に対する「ごめんなさいから始める」活動です。子供たちが感じているストレスの軽減と、受けている内部被ばくの減少を目的として、たとえ一週間という短い期間でも汚染されていない地域で過ごし、思い切り遊んでもらいたいと思っています。ご理解の程宜しくお願い致します。

### 皆様からのご寄附をお願いします

#### - 郵便局からの振込 -

口座記号番号 (ゆうちょ銀行)

00500-1-101787

口座名 キッズふくしま たかだ

#### - 他金融機関からの振込 -

店番 059 (ゆうちょ銀行)

口座名 キッズふくしま たかだ

預金種目 当座

口座番号 0101787



**3日目 (3月27日)  
~6日目 (3月30日)  
ホームステイ**



## ステイ先①



後半は各寺院でのホームステイです。それぞれのステイ先寺院で趣向を凝らし、来てくれた皆さんから楽しんでもらうためのイベントや施設訪問などを行いました。初めてのホームステイで宿泊先がお寺。ちよっぴり不安だけとお友達も一緒だから大丈夫。そんな気持ちを抱えながら参加してくれた子もいました。

ステイ先の様子全てを紹介することはできませんが、その一部を写真で紹介します。

## 専敬寺&光明寺



## 円照寺



## ステイ先②



## 覚願寺

## ステイ先③

# ステイ先④



## 新井別院



いわき市 岡部 亮子様

この度はキッズふくしまの企画をしていただいたスタッフの皆様、ホームステイを受け入れてくださいました皆様に心から感謝いたします。

今回参加が決まったとき大喜びし、携帯の留守電を何度も聞いていました。参加が決まったときには、必ず子供には「な



ぜキッズふくしまに参加できるのか」を子どもに伝えて参加させました。今回参加した平成二十年生まれの次男（震災当時三歳）は震災の事はあまり覚えてお

らず、覚えているのは保育園に行くのにマスクを持っていったとの記憶はあるようで、震災を覚えていない次男には、「伝えていく」と言う大切なことを親も学ばせていただきました。

学校の行事で五年生になると宿泊活動という行事があり、海で磯遊びの時間がありました。その説明会の時、先生より「子供さんと海へ行ったことがある人」

と保護者に聞いたところ数名しかおらず、私はとても驚きました。

やはり理由としても、放射能汚染が心配なのでしょう。安心とは言えないのかもしれない。当時は海もダメ、外遊びも時間を決めて遊ばせよく手洗いうがいをしなさい、と言っていました。外遊びがあまりできなかった当時の子供たちは足の上にならない子供たちと、呼ばれるようになりよく転んだりつまずいたりすると言われました。やはり子供は、思いつきりで外で遊びたいし、走りたいたいものです。

震災すぐにこのキッズふくしまの企画をしていただいたスタッフ様の気持ちは本当に感謝です。子供たちが今のスタッフさんのように大きくなった時、震災などで手が必要となった時、この企画に参加したことを思い出し自分の手で動いてほしいと願います。貴重な体験をありがとうございます。



郡山市 遠藤 浩様

二人の子供たちが、キッズ福島に参加してから、七年が経ちました。長男は、四年間参加、次男は三年間参加し、新潟県で貴重な体験をさせていただきました。毎回子供たちは、新潟での生活を楽しみにしております。でも出発前は自宅を離れる不安の気持ちが強くと、眠れない日も見られました。しかし、毎回帰ってくる、家の中では子供たちの大きな声と明るい笑顔に、私たち大人も元気をいただいております。子供たちの新潟での生活話なども、楽しく聞いております。

さて、東日本大震災から八年が過ぎました。震災当時の状況は、テレビで皆様も知っているとはいえません。当時、毎日続く余震に子供たちは夜も眠ることができずに怯える日々を過ごし、テレビで見る津波の映像に「おうちまで津波が来る？」と不安になるたくさんの子供たち。さらにその二日後、福島第一原発の爆発。子供たちはこの日

から外で遊ぶこともなかなかできず、家の中の生活となっていました。学校へ登校する際は、放射線の量を測る「線量計」を毎日つけて学校へ行き、一週間ごとに線量を計測する日々が続きました。外での運動もできなくて、肥満体型の子供も増えました。「食の安全」と言う親が一番心配をする問題も出てきました。現在は、当時よりも「食の安全」は、以前より良くなってきましたが、まだ手が出ない一部の食材もあり、不便も感じています。震災から五年が経った頃には、ようやく自宅の除染が始まりました。庭の汚染された土（汚染土）は、撤去できずに今も自宅敷地内の地中に埋められています。次男は、震災時幼かったため、庭に除染土が埋められている事は、わかっていません。政府の対応も遅く昨年、除染地の撤去が延期今もなお不便を強いられている状況です。原発問題は、今後四十年をかけた廃炉にすると聞いていますが、福島の子供たちは不安を抱えたまま生活をしていかなければなら

りません。時が経つにつれ、震災の記憶は、全国的にも薄れてきていますが、多くの方々に福島の子供たちの今を知ってほしいと思います。

最後に、毎年高田教区の方々には大変感謝しております。今後子供たちが未来へ向け、楽しく明るい生活が送れるように見守って下さい。そしてこれからもこのような活動を継続していただければ幸いです。

高田教区の皆様方  
のますますのご健勝  
とご多幸を心よりお  
祈りしております。



## スタッフ募集!

※ お問い合わせは事務局まで

実行委員会では随時スタッフを募集しています。

～池の平会場において～

- ① 全日程通じての参加
- ② 短時間での参加
- ③ 食事の準備、片付け
- ④ 子どもたちと遊びたい人
- ⑤ 現地への送迎

～ホームステイにおいて～

- ① ホームステイの受け入れ
- ② 食事のみの提供（そば打ち、餃子、BBQなど）
- ③ 催し物や行事の提供（お講、子供会、陶芸教室、各種スポーツなど）
- ④ 資金の援助
- ⑤ 移動の送迎サポート

よろしくお願ひします!